ミャオ（モン）族のスカートの素材・デザインの変化とその背景

宮脇千絵（総合研究大学院大学）

発表では、雲南省文山県のミャオ（モン）族の衣装の変化を、ある一家の 3 世代 3 人の女性が所有しているスカートを事例に報告する。

文山地域のミャオ族は自称をモンといい、モン・スー、モン・ジュア等の支系に分かれ、衣装もそれぞれ異なる。彼女たちは現在でも毎年春節の時期に衣装を新調する。古くなったものは作業着やボロとして利用し、最後には捨てる。また死者がでたときには、家族が形見として残しておくもの以外すべて葬儀時に焼く。スカートは細かいブリーツがついた独特の形をしており、染めや刺繍の技法が集約されているため、ミャオ族の衣装を構成するうえで最も代表的なパーツである。

文山県 H 村はモン・ジュアの村であり、そこに居住する X 家には、祖母（72 歳）、母（38 歳）、娘（18 歳）の 3 世代 3 人の女性がいる。ミャオ族は支系間での婚姻に制限はないため、嫁の支系が家族と異なる場合がある。モン・ジュアの村に暮らす X 家の祖母はモン・スーである。母は H 村で生まれ育ったモン・ジュアであるが、その母はモン・スーである。娘はモン・ジュアである。X 家の 3 女性は 2008 年の時点で合計 38 枚のスカートを所有している。祖母と母がモン・スーの出目を持つため、X 家にはモン・ジュアのスカートはない。

X 家が所有するスカートを年代順に並べると、まず素材の変化に気づく。もともとミャオ族のスカートはすべて麻で作られていたが、1980 年代から綿や化繊が一部に取り入れられるようになる。そして 1999 年を境に X 家では麻を使用しなくなる。素材の変化に加えて 2004 年ごろからはデザインの変化が目立つ。カラフルな化繊やサテンの使用が増え、流行色が生まれ、ピースを縫い付けるなど作り手が自由にデザインの意匠を凝らすことになった。

このような変化の背景には、ミャオ族を取り巻く生活環境の変化があげられる。まず経済的な変化がある。1980 年代から商品の栽培が増えたこと、1990 年代から出稼ぎが増ええたことにより、現金収入が増えた。次に時間的な変化があげられる。教育や出稼ぎの機会が増えた若者には衣装製作にかかわる時間はない。また商品の栽培により、農作業の年間サイクルも変わり、麻栽培から始まる衣装製作の時間が以前より取りにくくなった。また、出來合いの衣装や素材が定期市で手軽に購入できるようになり、市場のめまぐるしい変化に合わせ衣装のデザインも変化している。さらに着用する女性たちにも、人と違うものが着たい、昨年と同じものは着たくないという心理が生まれてきたこともあげられる。

本発表では現地で撮影した写真を用いてスカートの変化の特徴を明らかにし、その背景にあるミャオ族の生活環境の変化との関係について考察する。

キーワード：ミャオ（モン）族、衣装、麻、生活環境